

視察研修・研修会報告

議席番号 12 番 議員名 小林勇治 印

1. 年月日 令和7年8月26日(火)～28日(木) (2泊3日)

2. 場所 北海道 音更町、札幌市

3. 視察研修事項

(1) 音更町 「廃校の利活用について」

とき 令和7年8月26日(火) 15:00～16:30

ところ おとふけ町ビジネス創出拠点 昭和商学校 Palette

4. 面接者

音更町議会議長 高瀬博文

音更議会 事務局長 赤崎範子

音更町議会 総務課長 鎌田隆寛

音更町 企画財政部 まちづくり推進課長 西岡淳一

音更町 企画財政部 まちづくり推進係長 横井大祐

音更町 企画財政部 まちづくり推進係 主事 吉本碧斗

音更町地域おこし協力隊 地域共創推進員 山城潤一

5. 視察研修の成果

音更町企画財政部まちづくり推進課

「廃校利活用 昭和商学校 Palette について」

◎音更町立昭和小学校（令和２年３月閉校）

⇒おとふけ町ビジネス創出拠点 昭和「商」学校 Palette

・なぜ、閉校した学校を『ビジネス創出拠点』としたのか？

↓

「経過」と「ねらい」

2019年度（令和元年）で閉校する「昭和小学校」の跡利用を検討。

⇒利点＝立地。比較的市街地に近い。

まちの兼ねてからの課題

① 企業誘致

② 関係人口の増加

③ 商工業の活性化につながるもの

⇒学校をサテライトオフィスとして活用し、三大都市圏等の企業を誘致する

案⇒役場内部からの案

◎閉校→企業誘致へ⇒音更町の歴史

2020年（令和２年）３月

昭和小学校閉校

⇒新型コロナウイルス感染症の感染拡大

⇒テレワークなどの多様な働き方の推進



2021 年（令和 3 年）

⇒「第 6 期総合計画」の基本計画に、

感染症対策や働き方改革の一環として、テレワークに取り組む企業に対する誘致や支援活動が必要



校舎の一部を貸事務所地して利用しながら、関係人口の拡大や人材育成などの事業を行う事業者を募集。

⇒行政だけでなく、この事業を官民連携で取り組む。

⇒『地域共創』



① 事業者を募集。

山中 HD グループ 令和 3 年 10 月入居

② 小樽商科大学が分室設置を検討。

③ 「旧昭和小学校 改修工事 実施設計」に着手。



2022 年（令和 4 年）

「旧昭和小学校 改修工事」に着工～完成（令和 5 年 3 月）

改修費：157,971,000 円【緊急防災減災事業費】

⇒避難所

⇒地方交付税措置率 70%

↓

2022 年（令和 4 年） 8 月

「音更町・小樽商科大学 包括連携協定」を締結。

⇒多様な分野で包括的に連携し、持続可能な社会の発展、人材育成等を目的。

↓

2023 年（令和 5 年） 4 月

「小樽商科大学 音更サテライト」開設

「昭和商学校 Palette」オープン。

◎「商」学校⇒本町のビジネス拠点として、産業活性化などを目指す。

◎「昭和商学校 Palette」

- ・ワーキングスペース

- ・フリーエリア無料 個室 1 時間 100 円

- ・利用者⇒フリーランス、会社員 etc。十勝管内が多いが道外利用者も。

- ・利用目的⇒PC 作業、打ち合わせ etc

令和 5 年度 のべ 77 名

令和 6 年度 のべ 227 名

令和 7 年度（7 月末時点） のべ 109 名

②シェアキッチン

- ・利用者⇒フリーランス菓子製造、農業者 etc

- ・利用目的⇒焼菓子、和菓子、果樹スイーツ etc

令和 5 年度 ⇒のべ 142 名利用

令和 6 年度 ⇒のべ 211 名利用

令和 7 年度（7 月末時点） ⇒のべ 95 名利用

★実人数 33 名のうち、27 名が起業。

◎シェアキッチンを中心とした企業支援

①イニシャルコスト軽減

半日 1,500 円、1 日 3,000 円

②補助⇒産業振興補助金（商品開発費用等）

③販売⇒道の駅おとふけでのテスト販売

→マネージャーからアドバイス

◎シェアキッチンの最大の目的

⇒シェアキッチンで起業、将来的に、町内に製造所・工場の設置。

⇒「昭和商学校」の卒業生を増やすこと。

令和7年7月末 卒業生7名

十勝⇒フランス⇒十勝 音更町

音更町内 酪農家の妻

神奈川県相模原市出身

→特産の『酒まんじゅう』を十勝産の原料で製造、販売。

⇒ふるさと の味を十勝で！

④ シェアスペース⇒貸会議室

●1時間 200円

●令和6年度 のべ46件

令和7年度（7月末時点） のべ19件

◎『産・学・官・金』の連携

・『産』

「(株) 山忠 HD グループ」 「中央コンピューターサービス (株)」

・『学』

「小樽商科大学」

→開学 112 年の国内唯一の商学を中心とする社会科学系の国立単科大学。ビジネススクールを有し、商学を中心に様々な分野の教員が、昭和商学校でセミナーやスタートアップの伴奏支援を行っている。

○小樽商科大学 音更サテライト

ユニバーサル・ユニバーシティ構想（UU 構想）

→2030 年までに道内で高等教育を受けられない学生を 0 にするという構想。

北海道内に 10 か所サテライトを設置。

しょうに道内初のサテライト教室を設置。

⇒夜間主に働きながら大学へ通う。

小樽商科大学の学位

『金』

「合同会社 コントレイル」

⇒十勝に資するビジネスアイデアへの出資や融資

○スタートアップ

「やさいくる」

→野菜の未利用部分や選別された規格外品を活用して、手作りしたサステイナブルなペーパーやキャンドルを製造・販売。

「(株) ママの HOT ステーション」

→『ママは地域の戦力になる』というコンセプト

超高齢化社会を見据えた多世代交流型ママ支援事業を実施。

⇒ソーシャルビジネスとして展開するため、ママのネットワーク構築。

◎今後

①「企業の研修」「学生誘致」「イベント」

②「視察」他自治体や民間企業の視察の受け入れ。

●こども向け屋内遊戯施設を核とした新たな観光拠点の整備による十勝川温泉

地域活性化プロジェクト

●宿泊施設の整備による昭和商学校 Palette 機能強化プロジェクト

→宿泊・研修・交流施設を新築し、さらに人を呼び込む。

⇒企業研修、学生合宿 etc

<所 感>

矢板市は令和4年3月豊田小学校、令和5年3月に川崎小学校が閉校になり、さらに令和10年3月には安沢小学校、乙畑小学校が閉校になることが決まっている。音更町の廃校利用は本市にとって大いに参考となる先進的な取り組みであります。今後の廃校利用に大いに活用していきたいと思いました。

(2) 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

—地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて—

開始日：8月27日(水)・28日(木)

場所：札幌文化芸術劇場 hitaru

基調講演は「主権を預かる誇りと責任」と題して元衆議院議長 伊吹文明氏が行った。

続いて①【パネルディスカッション】「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ■コーディネーター：辻 陽氏 ■パネリスト 牧原 出氏〔東京大学教授〕 白石洋一氏〔読売新聞東京本社政治部次長〕 山下節子氏〔山口県宇部市議会議長〕 長内直也氏〔北海道札幌市議会議長〕 による公開討論がされた。

②【課題討議】「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」が ■コーディネーター 牧瀬 稔氏〔関東学院大学法学部地域創成生学科教授〕 ■事例報告者 今井康善氏〔長野県岡谷市議会前議長〕 平神純子氏〔鹿児島県南さつま市議会議員〕 中野 進氏〔石川県白山市議会議長〕 による公開討議がされた。

<所 感>

地方議会議員のなり手不足は全国的な問題です。解決策として定数削減、議員

報酬の引き上げ、その中で参政権25歳の引き下げてはどうかの意見があったが、大学を出て社会経験もしない人が議員になって市民のことが理解できるか疑問で反対すると意見をしていた。私も同感です。矢板市議会の報酬引き上げは必要な対策だと改めて思いました。